

2025年 第16回 高校生の「建築甲子園」県大会予選報告

士会事務局

日本建築士会連合会の“高校生の「建築甲子園」”山口県大会予選の結果をお知らせします。

1 応募作品

徳山工業高等専門学校から 3 作品

柳井商工高等学校から 4 作品

2 選考委員

委員長：住田和明

委 員：盛重賢造、神田周二、柴田昭子

3 全国大会出場作品

- ・「灯屋 AKARIYA～繋がりの拠点～」（徳山工業高等専門学校3年生）
- ・「だんだん大畠の寺小屋」（同1・3年生）

4 講評（審査委員長 住田和明）

県大会予選の審査にあたっては、前回と同様に「県大会予選審査委員会」を設置し、4名の委員により令和7年10月29日に県建築士会館において実施しました。

応募は7作品あり、この中から2作品を選抜し、全国選手権大会（連合会審査）へ提出することとしました。

県大会予選では、「建築甲子園」のテーマである「地域のくらしー地域に根ざした新しい和室を持つ戸建の住まい」を基本とし、現在和室は日本の住まいから消えつつありますが、日本にしかない新しい和室を持つ住まいの提案を期待しました。

また、少子高齢化、外国人労働者の増加など様々な働き方、住まい方が変化する今、地域でのコミュニティが重要となってきた社会の現状を踏まえ、提案者が地域の暮らしと周辺環境に目を向けて、現況や従来型にとらわれず、提案者の自慢の町・環境を活かした地域コミュニティのきっかけとなる地域に根ざした住まいを計画理念として様々なケースの提案を期待しながら審査しました。

審査項目については、①テーマの理解度、②提案度、③具体性、④独創性、⑤表現力等の5項目とし、評価は各審査項目共に10点満点とし、1作品につき委員の持ち点を50点満点、合計200点満点で上位2チームの作品を選抜することとしました。

また、公平性・公正性を確保する観点から、応募チーム名を伏せて終始匿名で選考を行いました。

7点の作品は、NO.1)「新しい和室を持つ照葉の住まい」可動式畳の提案、NO.2)「暮らしに寄り添う表裏一体の心地よさ」リバーシブル畳の提案、NO.3)「潮風 和と洋を感じられる木造住宅」

和室と洋室の2WAY仕様の提案、NO.4)「床の間シネマ～和室に宿る新しいエンターテインメント～」シアタールームとして床の間を活用する提案。NO.5)「だんだん大畠の寺小屋」瀬戸内海とともに学ぶ寺小屋を提供する提案、NO.6)「竹縁物語」竹守ボランティアのくらしのための提案、NO.7)「灯屋 AKARIYA～繋がりの拠点～」ベトナムの方と町の方の憩いの土間を持つ提案でした。

いずれの作品も地域の現状と課題を的確にとらえ、様々な発想とユニークで具体性のある提案でしたが、テーマの捉え方や提案図としての精度、表現方法の創意工夫が望まれる作品も見受けられました。

応募のあった7作品のそれぞれの合計点は各委員共に同様の傾向でしたが、上位と下位では多少の差が生じました。

そのような中で得点上位の2作品は、①NO.5)「瀬戸内海とともに学ぶ寺小屋を持つ家」をテーマに瀬戸内の景色が一望できる柳井市大畠の段々畑に、瀬戸内海を眺めながらの地域住民の経験の交換の場として和室を配置し、横長の敷地特性を利用したオールオーシャンビューの住宅平面の提案でした。

次に、②NO.7)「灯屋 AKARIYA～繋がりの拠点～」では、光市室積は漁師資格取得のためベトナムの方が増加中、彼らは町と一緒に造る大切な仲間で彼らと町の方の憩いの場として土間を持つ提案でした。地域の現状課題を明確にとらえるとともに、和室=畳の提案が多い中、ベトナム文化との共通点からの土間の提案が秀逸でした。

いずれの作品も、新しい和室の提案、付近見取り図や立面図等の表現・精度について課題もありましたが、地域に根ざした戸建の住まいがイメージできる記述やテーマの理解度、提案度、具体性も優れていることから選抜作品としました。

最後に、本「建築甲子園」に応募され、貴重な時間と労力を費やされ、提案していただいた各チームの皆様に敬意を表すとともに、心より感謝いたします。

今回、惜しくも選抜されなかったチームの皆さんのが更なる躍進と次回も多くのチームが応募されますよう期待しています。

全国大会の結果、山口県代表の2作品は、いずれも奨励賞を受賞しました。

全国大会出場作品を表紙中に掲載しました。